

学力向上アクションプラン(中津市)

目標及び指標

【目標】	
①児童生徒の学力に関する目標	②学校等が抱える組織的・構造的な課題
ア、全国学力調査等で、全国平均を超える学校の増加(課題A、B) イ、学習の見通しをもったり、振り返りを行ったりして主体的に学習に取り組む児童生徒の増加(課題A、C)	エ、学校教育目標達成に具体的ににつながる授業改善5点セット等各種ツールに基づく研究組織の改善(課題D、E) オ、アクティブ・ラーニングとカリキュラムマネジメントの研修の充実(課題D、F)

達成指標	取組指標
ア、全国学力調査・県学力調査・・・全教科で全国平均を超える学校 小学校8校、中学校4校 ○全国国語算数数学B問題・・・市平均が全国平均 -2p以上。	○全ての教員が授業の終末に学習内容の定着状況を確認把握する場を設定、実施する。 ○全ての学校で全国B問題の活用を年間指導計画に位置づけ実施する。
イ、児童生徒質問紙調査・・・めあてや振り返りを意識して学習に取り組んでいる割合80%以上	○全ての教員が「めあて、かだい、まとめ、ふりかえり」等を位置づけた授業を実施する。 ○全ての学校で、学期に1回以上、全国や県の質問紙調査項目を活用したアンケートを実施し、全ての教員が課題点を必ず授業改善につなげる。 ○全教員が、担当教科1単元に1回以上生徒による授業評価を実施する。
ア、ウ、児童生徒質問紙調査・・・読書(新聞含む)によく取り組む割合60%以上	○全ての学校で、NIEタイムを月2回以上実施する。 ○全ての学校で新聞活用を必ず含む学校図書館活用教育年間計画作成し、実施する。 ○学校司書は、学期に1回以上校内研修等に参加する。
エ、オ アクティブ・ラーニング及びカリキュラムマネジメントを推進する学校5割以上	○全ての学校で、学年組織だけに依らない研究組織作りを実施する。 ○全ての学校で、アクティブ・ラーニング及びカリキュラムマネジメントに特化した研修を年2回以上実施する。

行動計画

①「中学校学力向上対策3つの提言」の実施に関して

<p>1 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底</p> <p>①「自ら学び拓く中津っ子育成事業」(文科省AL実践研究含む)を実施する。 ・生徒指導の三機能を生かした主体的・対話的で深い学びのある授業を充実させる。 ・拠点校1校(東中津中)及び研究連携校4校(耶馬溪中・城北中・豊陽中・中津中)から全中学校へ広げさせる。 ・授業改善、実施の中核教員として学力向上支援教員及び習熟度別指導推進教員を研究校に配置し活用する。</p> <p>②習熟の程度に応じた指導の手立てを設定し、互見授業・授業研究を実施する。 ・年1回以上全教員が行う互見授業等の指導案に「習熟・・・の手立て」を明記する。 ・習熟度別指導推進教員を中核とした教科部会での、効果的な習熟度別指導の研究及び実践をする。 ・推進教員配置校において作成実施した習熟度別指導単元プランを、連携校等に提供させる。</p> <p>③全ての教科に共通した授業改善の最重要ポイントとして、「評価の工夫(評価規準・ルーブリック・評価方法)」を設定し、互見授業・授業研究を実施する。</p> <p>④「中学校学力向上対策3つの提言」の実行をめざす推進重点校の県指定を受け、授業改善を推進する。 ・学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員を効果的に活用する。 ・指導主事(県、市)が継続的に指導支援を行う。 ・重点校連絡協議会で情報交換や成果の周知を行う。 ・「学びに向かう学校」づくり連絡協議会に生徒が参加する。</p> <p>2 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築</p> <p>①耶馬溪地区3校(本耶馬溪中・耶馬溪中・山国中)合同教科部会を実施する。 ・各教科学期に1回以上実施し、互見授業・授業研究及び評価問題の作成を行う。 ・国語、数学においては、中核教員(学力向上支援教員(本耶馬溪中)、習熟度別指導推進教員(耶馬溪中))を配置する。</p> <p>②東部地区2校(今津中・東中津中)合同教科部会を実施する。 ・各教科年に2回以上実施し、互見授業・授業研究及び評価問題の作成を行う。</p> <p>③複数の教科担任がいる学校では、2学年以上の教科担任「タテ持ち」を実施する。 ・校内教科部会を月2回以上位置づける。 ・東中津中学校の取組をモデルとして広げる。</p> <p>3 「生徒と共に創る授業」の推進</p>

②小学校の授業改善の取組について

<p>1 「新大分スタンダード」に基づく授業改善の質の向上を図る取り組み</p> <p>①「自ら学び拓く中津っ子育成事業」(文科省AL実践研究含む)を実施する。 ・生徒指導の三機能を生かした主体的・対話的で深い学びのある授業を充実させる。 ・互見授業、授業研究を実施し、教科等の特質に応じた資質・能力を整理する。 ・拠点校2校(山口小・三保小)及び研究連携校4校(豊田小・沖代小・如水小・小楠小)から全小学校へ広げる。 ・国語科、算数科、生活・総合を中心に単元プランを作成、実施、見直しをする。 ・授業改善、実施の中核教員として学力向上支援教員及び習熟度別指導推進教員を研究校に配置し活用する。</p> <p>2 低学力層の底上げに関する取り組み</p> <p>①算数科を中心に、習熟の程度に応じた指導の手立てがある授業を実施する。 ・年1回以上全教員が行う互見授業等の指導案に「習熟・・・の手立て」を明記する。</p> <p>②推進教員配置校において作成実施した習熟度別指導単元プランを、連携校等に提供させる。</p> <p>3 市授業改善推進協議会を月1回実施し、取り組みの進行管理を行う。</p>

③家庭・地域と連携した学力向上の取組について

<p>ア. 放課後や土曜日の教育環境の充実</p> <p>①1年を3期間に分け、各中学校において毎週水曜日放課後1時間、「学びのススメ英検塾」を実施する。地域のNPO法人から講師を派遣し、英検受験指導並びに英語学習の補習とする。(長期休業中は除く)</p> <p>②1年を2期間に分け、隔週土曜日、地域のNPO法人から講師を派遣して、「中学生ステップアップ講座」を実施する。国語、英語をベースとして、論理的に自分の考えを発信する学習を行う。ディベート大会、英語スピーチ大会などを開催し、学習の成果を認め合う。</p> <p>③長期休業中に、「学びのススメ塾」として、小学校は国語・算数、中学校は英語・数学の補充学習を行う。必要に応じて、地域のNPOから講師や採点等の補助を行う教育ボランティアを派遣し、補充学習を支援する。・H28年度中学校での応援教室(学びのススメ土曜塾)を3校実施から6校実施に増やし、放課後・土曜日の 補充学習をより充実させる。小学校の土曜教室の数は現行のまま、補充学習等の内容を充実させる。</p> <p>イ. その他</p> <p>・中津ジュニア・グローバル・リーダー研修・・・地域のNPO法人の企画・指導によるグローバル人材育成</p>
